

# 第14章 実習の振り返り

令和元年度 介護支援専門員実務研修



# 「目的」 を確認しよう



# 目的 P29

実習を通して得られた気づきや課題を客観的に振り返り、発表することを通じて今後の学習課題を確認する。



# 「目標」 を確認しよう



## 修得目標 P31

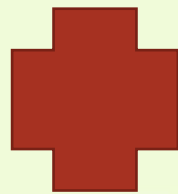
- ① 今後の学習課題について説明できる。
- ② ケアマネジメントプロセスに沿って、実習で作成した居宅サービスについて説明できる。
- ③ 実習を通じて倫理的課題について説明できる。
- ④ 受講者間相互の話し合いにおいて、不足している知識について説明できる。



# 1 実習で気づいたことの説明について

## (1) 模擬ケアプラン作成での気づきの説明 P 32

- インテークを通してどのようなことに気づいたか
- アセスメントを通してどのようなことに気づいたか
- 居宅サービス計画作成を通してどのようなことに気づいたか



私の課題(知識や技術など具体的に)



# 1 実習で気づいたことの説明について (2) 見学・観察実習での気づきの説明 P 32～33

- 見学、観察した場所を整理
- 見学、観察した場面、内容を整理
- どのようなことに気づいたか



# 1 実習で気づいたことの説明について (3) 実習を通して感じた倫理的課題の説明 P 33

## 介護支援専門員が備えるべき基本的な倫理

(介護支援専門員実務研修テキスト上巻P241)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| ①自立支援        | ⑦法令遵守          |
| ②利用者の権利擁護    | ⑧説明責任          |
| ③専門的知識と技術の向上 | ⑨苦情への対応        |
| ④公正・中立な立場の堅持 | ⑩他の職種との連携      |
| ⑤社会的信頼の確立    | ⑪地域包括ケアの推進     |
| ⑥秘密保持        | ⑫よりよい社会づくりへの貢献 |





# 1 実習で気づいたことの説明について (4) 実習を通して認識した今後の学習課題の説明 P 33

◎学習課題はだれの課題なのか。

◎学習課題はどのように設定すればよいのか。

## 【学習課題】

自分が解決すべき自分自身にある課題



1 実習で気づいたことの説明について  
(4) 実習を通して認識した今後の学習課題の説明 P 33

実習で見た到達すべき姿から読み取れる  
「知識」、「技術」、「専門職としての姿勢」  
などと現在の自分の比較をする

介護支援専門員  
有資格者としての  
あるべき自分

到達点

現在の自分

課題

課題

課題

到達するために足りない  
ところ(課題)を具体的に



## 2 演習の展開

### (1) 演習の進め方

#### 【演習の目的】

ケアマネジメントのプロセスを実践して、気づいたことを発表（発表準備含）することで自分の整理につながる。

他者の発表を聞くことで、自分の知識や技術が不足している部分や、視点の多様性に気づくことができる。



## 2 演習の展開

### (2) 演習① (模擬ケアプラン作成実習事例の説明)

#### 【説明資料】

グループ内でケースの情報が共有できる

参加者は質問をしやすくなり、情報をさらに明確にできる。

作成者の課題抽出のヒントとなる



## 2 演習の展開

### (2) 演習① (模擬ケアプラン作成実習事例の説明)

#### 【説明時間10分以内シナリオ作成】

- ①基本情報(年齢、性別、家族構成、住まい、要介護原因、要介護認定時期など)
- ②現在の状況(心身状況、現状に至った経緯など)
- ③アセスメントの方法
- ④解決すべき課題を導くための思考の整理方法
- ⑤インタビュー、アセスメント、ケアプラン作成をして、難しいと感じたこととその理由

指導者から助言を受けた場合は、そのポイントを紹介



# 1 実習の総合的な振り返り P 36

前期

実習

後期

- 実習振り返り
- 「ケアマネジメントの展開」基礎理解
- 脳血管疾患に関する事例
- 認知症に関する事例
- 筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例
- 内臓の機能不全に関する事例
- 看取りに関する事例
- アセスメント及び居宅サービス計画書等作成の総合演習
- 研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り

## 2 今後の学習課題への取り組み P 36

前期

実習

後期

- 実習振り返り
- 「ケアマネジメントの展開」基礎理解
- **脳血管疾患**に関する事例
- **認知症**に関する事例
- **筋骨格系疾患及び廃用症候群**に関する事例
- **内臓の機能不全**に関する事例
- **看取り**に関する事例
- アセスメント及び居宅サービス計画書等作成の総合演習
- 研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り

専門的ケアマネジメントの視点を学ぶ機会

### 3 介護支援専門員実務研修カリキュラム見直しの背景の確認 P 36

- ① 介護保険の理念である「自立支援」の考え方が、十分共有されていない。
- ② 利用者像や課題に応じた適切なアセスメント（課題把握）が必ずしも十分でない。
- ③ サービス担当者会議における多職種協働が十分に機能していない。
- ④ ケアマネジメントにおけるモニタリング、評価が必ずしも十分でない。
- ⑤ 重度者に対する医療サービスの組み込みをはじめとした医療との連携が必ずしも十分でない。
- ⑥ インフォーマルサービス（介護保険給付外のサービス）のコーディネート、地域のネットワーク化が必ずしも十分できていない。
- ⑦ 小規模事業者の支援、中立・公平性の確保について、取組が必ずしも十分でない。
- ⑧ 地域における実践的な場での学び、有効なスーパーバイズ機能等、介護支援専門員の能力向上の支援が必ずしも十分でない。
- ⑨ 介護支援専門員の資質に差がある現状を踏まえると、介護支援専門員の養成、研修について、実務研修受講試験の資格要件、法定研修の在り方、研修水準の平準化などに課題がある。
- ⑩ 施設における介護支援専門員の役割が明確でない。